

明日の『あたりまえ』を創り続ける



ASTENA
HOLDINGS

Astena Holdings Co., Ltd.
COMPANY PROFILE

Diversify for Tomorrow.

アステナグループは、持株会社であるアステナホールディングスを核として
ファインケミカル事業、HBC・食品事業、医薬事業、化学品事業、
ソーシャルインパクト事業の5事業の各社で構成されています。
さらにESG経営による持続的な成長を目指すべく
新規事業への投資と育成にも取り組んでまいります。

社名の意味

アステナは「明日（未来）」と「サステナブル（持続可能）」の造語であり、
新たな経営・ガバナンス形態の下で、アステナグループのステークホルダーである皆
様と当社自身が持続的に健やかな未来を迎えられるようなビジネスを行っていく
願いを込めています。

ロゴの意味

DNAをモチーフにすることで
伝統と先進性を両立するイメージを表現しました。



事業セグメント

バリューチェーン（売上計上マップ）

アステナグループは、ファインケミカルをはじめとした5つの事業において、研究開発から販売業まで幅広いバリューチェーンを持っています。



※ソーシャルインパクト事業は広範な分野に事業を展開しているため記載しておりません。

事業セグメント

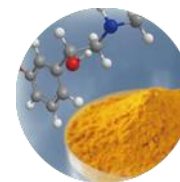


ファインケミカル事業

ファインケミカル事業は、医薬品開発エコシステム部門、医薬品原料プラットフォーム部門、医薬品CDMO部門*1の3部門を柱とし、医薬品開発・製造分野において幅広く展開しています。医薬品開発エコシステム部門では、開発ステージに適した医療用医薬品の研究開発、治験原薬・治験薬製造などのCMC関連サービス*2をハイレベルで提供しています。また、独自の合成技術を活かし、環境に優しく高品質・低コストなペプチド原薬の製造プロセス開発、技術移管、ライセンスを行っています。さらに、創薬インキュベーションを通じて、ベンチャー企業への出資により国内の新薬開発に貢献しています。医薬品CDMO部門では、半固形剤、固形剤、注射剤の治験薬製造から商用製造が可能な、安定供給を意識した体制を構築し、注射設備においては、日米欧の3極PIC/S GMPに準拠するカテゴリー5相当の封じ込めに対応しています。医薬品原料プラットフォーム部門では、多彩かつ高度な大量製造技術を活かし、ジェネリック医薬品の商用原薬の製造、新薬の中間体および原薬の受託製造を手がけ、国内外の信頼あるメーカーから、各種原料・中間体、添加物などの調達と販売を行っています。


*1 CDMO : Contract Development & Manufacturing Organization

*2 CMC : Chemistry, Manufacturing and Control



 スペラファーマ

 スペラネクサス

 岩城製薬佐倉工場株式会社

 Jitsubo



HBC・食品事業

HBC・食品事業は、化粧品、食品、ライフサイエンスの各分野において、幅広い事業を展開しています。化粧品原料部門では、国内外の調達力と独自原料を強みに、製品テーマに適した原料選定と提案を行い、お客様の開発を幅広くサポートします。食品原料部門では、一般加工食品向けから機能性食品向けまでの豊富な品揃えに加え、長年培ってきた経験と迅速で親切なチーム営業により、お客様の原料選定をサポートします。ライフサイエンス部門では、創薬支援、体外診断用医薬品、医療機器、薬事支援を通じて研究・医療の現場を支えています。さらに化粧品製販部門では、スキンケア・メイクアップなどの最終製品を企画・開発し、販売支援や品質・広告表現に関するサポートを含め、多角的な化粧品ビジネスを展開しています。私たちは、既存事業の深化と新たな価値創造を通じて、お客様から“選ばれる”存在を目指しています。

*HBCは「Health & Beauty Care」の略称です。



 イワキ株式会社

 APROS

 maruman

 ains-lab

 iKeda


 ボーエン化成株式会社
※持分法適用会社



医薬事業

医薬事業は、医薬品および化粧品の開発・製造・販売を行っています。医薬品部門では、軟膏・クリーム・ローションなどの半固形剤に加えて、錠剤・散剤などの固形剤の製造・販売も手がけています。特に皮膚外用剤を主力領域としており、ステロイド外用剤は10成分30品目、抗真菌外用剤は6成分12品目と、幅広い成分・剤型を取り揃え、皮膚疾患治療の基礎となる医薬品をニーズに応じて提供しています。長年の医薬品製造で蓄積した技術と、徹底した製造管理・品質管理、さらにMRによる情報提供活動を通じて、安心して使用いただける医薬品をお届けしています。美容医療部門では、美容施術の前後にも使用できる医療機関専売化粧品「ナビジョンDR」および「イルセラ」ブランドを展開しています。皮膚領域における医療関係者との絆を強みとし、美容医療をより身近に感じていただきながら、肌をより良好なコンディションへ導くサポートを行っています。



 岩城製薬株式会社

事業セグメント



化学品事業

化学品事業は、表面処理薬品の先端を目指し、高品質高性能な薬品のグローバルな提供をはじめ、研究開発や製造方法の開発に注力しています。プリント基板セグメント向けとしてビルドアップ基板を中心に高機能ビアフィル用めっき薬品や精度の高いシード層エッチング液、電子部品セグメント向けにMLCC素材に適応したすずめっき薬品、半導体セグメント向けにはセンサーやパワーモジュール向けに種々薬品を提供しています。また、今後変化が大きい自動車用途向けには、新しいニーズにお応えすべく開発を進めています。さらに、各種めっき処理に関する機器・装置や金属塩および薬品原料、消耗品の販売も展開し、薬品と装置の総合的なソリューションを提供しています。また、プリント基板セグメントにおいては、より精度の高い回路形成が可能となるスプレー装置の開発を行い、高機能基板製造顧客から高い信頼を得ています。この実績からさらに用途拡大が期待されています。



Meltex



ソーシャル インパクト 事業

ソーシャルインパクト事業は、社会的な課題の解決を目指す事業を展開しています。特に地域社会と共に事業を創り上げる地域共創型の事業に力を入れています。2014年に「まち・ひと・しごと創生『長期ビジョン』」が策定され、人口急減・超高齢化の進展、将来の地域社会の存続危機という課題に対する政策が実行されてきました。その結果、社会的な課題の認識は進みましたが、それらの多くは未解決です。当社は能登半島の最先端に位置する石川県珠洲市に拠点を置き、地域の皆様とともに地域資源の付加価値を向上させ、循環型地域経済の構築に貢献します。



ASTENA Minerva



沿革

1914	大正 3年	薬種問屋、岩城市太郎商店創業
1931	昭和 16年	合資会社岩城製薬所設立（現 岩城製薬株式会社）
1937	昭和 12年	大阪出張所開設
1939	昭和 14年	岩城薬品株式会社設立（1986年12月吸収合併）
1941	昭和 16年	岩城市太郎商店を株式会社岩城商店に改称
1953	昭和 28年	福岡出張所開設
1955	昭和 30年	富山出張所開設
1962	昭和 37年	岩城謙太郎 社長就任
1963	昭和 38年	イワキ株式会社に商号変更 東京証券取引所市場第二部に上場
1964	昭和 39年	大阪証券取引所市場第二部に上場（2004年1月上場廃止）
1965	昭和 40年	ポーエン化成株式会社設立
1986	昭和 61年	岩城薬品株式会社を吸収合併
1989	平成 元年	本社ビル竣工
1994	平成 6年	岩城修 社長就任
2000	平成 12年	アプロス株式会社設立
2005	平成 17年	東京証券取引所市場第一部指定
2010	平成 22年	メルテックス株式会社、東海メルテックス株式会社および 東京化工機株式会社を連結子会社化

2011	平成 23年	株式交換によりメルテックス株式会社を完全子会社化
2014	平成 26年	創業100周年を迎える
2017	平成 29年	岩城慶太郎 社長就任
2020	令和 2年	スペラファーマ株式会社を完全子会社化 岩城製薬佐倉工場株式会社を連結子会社化 イワキ分割準備株式会社設立（現 イワキ株式会社） スペラネクス株式会社設立 マルマンH&B株式会社を完全子会社化
2021	令和 3年	アステナハートフル株式会社設立 JITSUBO株式会社を連結子会社化 アステナホールディングス株式会社に商号変更 珠洲本社開設 奥能登SDGs投資事業有限責任組合設立（のとSDGsファンド） 株式会社イワキ総合研究所をアステナミネルヴァ株式会社に商号変更
2022	令和 4年	東京証券取引所市場第一部からプライム市場に移行 株式会社アインズラボを連結子会社化
2023	令和 5年	AMトレーディング株式会社設立（現 株式会社NAIA）
2024	令和 6年	瀬戸口智 社長就任 創業110周年を迎える
2025	令和 7年	池田物産グループを連結子会社化



1941年（昭和16年）岩城商店に改称



1963年（昭和38年）
創業50周年記念祝賀会（於サンケイホール）



1989年（平成元年）
現在の本社ビル竣工



2014年（平成26年）
創業100周年感謝の会（於ホテルニューオータニ）

ファインケミカル事業

HBC・食品事業

医薬事業

化学品事業

ソーシャルインパクト事業

明日の『あたりまえ』を創り続ける



ASTENAGROUP

TOP MESSAGE

100余年前、創業者・岩城市太郎は関東大震災で店舗を失いながらも、翌々日に大阪へ薬を仕入れに向かいました。東京の相場が高騰する中、彼が守ったのは「定価販売」という信念。「東京でクスリを買うならイワキ」と信頼されるようになったのは、そこからです。

その信念は、今もグループの根底にあります。「誠実」「信用」「貢献」——この基本的理念が、すべてのベースとなっています。そしてこれに「変革」「連携」を加えた「SPIRIT」が、グループの行動指針として根付いています。

2021年の持株会社体制への移行を経て、私たちは5つの事業領域（ファインケミカル、HBC・食品、医薬、化学品、ソーシャルインパクト）で成長を続けています。各領域で「ニッチトップ」「プラットフォーム」といった明確なポジションを確立し、M&Aも取り入れ高付加価値化を推進しています。

同時に、成長によって生まれた価値をいかに分配するかを重視しています。株主への還元はもちろん、継続的な事業投資、そして人的資本と社会へ——付加価値を適正に分配する「分配経営」を実践することで、パイ自体を拡大させることが持続可能な成長への道と考えています。

石川県珠洲市への本社機能移転は、この哲学の実装を象徴しています。地方が抱える課題がすべて詰まったこの地で、私たちはソーシャルインパクト事業を展開。地元の原材料を活かした化粧品開発や、コメ、ラフマ、レモンなどの栽培に取り組んでいます。「地域も儲かり、我々も儲ける」——経済価値と社会価値の同時創造を実現します。

「3つのサステナビリティ戦略」に基づいた持続的成長。それは、グループの役職員一人ひとりが、ステークホルダーの皆様の幸せに直結する行動を心がけることから始まります。



代表取締役社長
瀬戸口 智

Diversify for Tomorrow.

明日の『あたりまえ』を創り続ける



www.astena-hd.com